

エグゼクティブサマリー



上期実績

売上高、営業利益ともに増収増益を達成、過去最高

前年同期比 売上高：109.6%、営業利益：102.0%※、四半期利益：92.5%

※前年同期に火災補償金（19億円）収益があり、それを除くと営業利益：108.2%

- 中国地域は、第1四半期の代理店需要が低調であったものの、第2四半期に機器・試薬とも大幅に需要回復し、伸長
- 海外地域は、ヘマトロジー・尿分野を中心に堅調な売上伸長と円安効果もあり、全地域が増収（現地通貨ベースで、米州、中国、APが大幅な増収）
- 販管費等は、直販地域拡大による人員増や人的資本強化のための人件費増、インフレ影響、デジタル化関連費用の償却開始などもあり、抑制に努めたものの円安による増加もあり、前年同期比 118.0%
- 計画に対しては、売上高は73億円の未達、販管費等は可能な限り効率化を図るも、営業利益は61億円の未達

通期業績予想

売上高・営業利益ともに期初計画の達成を見込む

- 上期実績および為替動向に合わせ、想定為替レートを変更
- 円安効果に加え、XR™シリーズなどの新製品の導入による売上伸長、下期原価率の改善や上期から検討を進めている不採算事業見直しの効果も一部期待されるため、計画達成を見込む

3

浅野：改めまして、浅野でございます。本日は決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。2023 年度第 2 四半期の業績概要についてご説明いたします。

スライド 3 にお進みください。上期の実績のエグゼクティブサマリーです。

売上高は、前年比 109%の 2,126 億円、営業利益は前年比 102%の 338 億円で増収増益。売上高、営業利益とも過去最高を達成いたしました。

営業利益の伸びが低いように見えますが、これは昨年度の第 2 四半期に火災補償金 19 億円の収益があったためで、これを除くと、営業利益は前年比 108.2%となります。

中国ですが、第 1 四半期は代理店需要が低調でありましたが、第 2 四半期は機器・試薬とも大幅に需要を回復し、伸長いたしました。

海外地域は、ヘマトロジー・尿を中心に売上が堅調で、円安効果も加わり、全地域で増収。現地通貨ベースでも、米州、中国、AP で増収となりました。

販管費等は、経費抑制に努めたものの、直販地域拡大に伴う人員増、インフレや人的資本強化のための人件費増、デジタル化関係の費用の償却開始に加え、円安により海外地域の販管費が、円ベースにすると増加してしまうということもありまして、対前年比 118%となりました。

計画に対しては、売上高は 73 億円の未達、海外での激しいインフレの影響はサービスコストにも影響を与え、販管費等は可能な限り抑制・効率化を図ったものの、営業利益は 61 億円の未達でした。

通期の業績予測ですが、売上高、営業利益とも期初計画の達成を見込みます。為替レートは、上期実績および為替動向を踏まえ、想定為替レートを変更いたします。その円安効果に加え、XR シリーズなどの新製品の海外地域での導入、さらに原価率改善を行うことによって実現したいと思えます。そして、さらに上期から進めております不採算事業の見直しの効果も一部期待できるため、計画達成を見込んでおります。

詳細につきましては、以降の説明でご説明いたします。

決算総括（対前年）



(億円)	2024年3月期2Q		前年同期		前年同期比	為替の影響	
	実績	構成比	実績	構成比		影響額	前年同期比 (為替影響除く)
売上高	2,126.9	100%	1,940.2	100%	109.6%	+65.3	106.3%
売上原価	1,016.8	47.8%	954.8	49.2%	106.5%	-	-
販売費及び一般管理費	625.9	29.4%	529.8	27.3%	118.1%	+23.0	113.8%
研究開発費	150.1	7.1%	145.2	7.5%	103.3%	-	-
その他の営業損益	4.1	0.2%	21.2	1.1%	19.5%	-	-
営業利益	338.2	15.9%	331.5	17.1%	102.0%※	+43.9	88.8%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	221.8	10.4%	239.8	12.4%	92.5%	-	-

● 過去最高の売上高と営業利益を達成

- ✓ **売上高** : 海外地域はすべて増収、中国は第2四半期で回復
円安効果もあり、2桁に近い増収を達成
- ✓ **営業利益** : 販管費は増加するも、売上原価改善による粗利増加や円安効果もあり、増益
※前年同期の火災補償金（19億円）を除くと 営業利益は対前年 **108.2%** の増益
- ✓ **四半期利益** : 為替差損益の影響により、減益

- 為替差損益：+13.5億円（前年同期比△18.3億円）



5

2023 年度第 2 四半期決算の概要です。スライド 5 をお願いいたします。

上期の決算の総括です。売上高はヘマトロジー・尿分野を中心に堅調な伸長が見られ、先に申し上げた通り、前年に対し、売上高 109.6%、2,126 億円。これを受け営業利益も増益となり、102%、338 億円となりました。

昨年度のその他の営業損益に含まれております、火災補償金 19 億円を除くと、営業利益は対前年 108.2%になります。

四半期利益につきましては、営業利益は増益でしたが、トルコリラや、ブラジルリアルなどの通貨の大幅下落による為替差益の減少や、法人税などの増加もあり、対前年減益となりました。

単四半期業績推移 (1Q→2Q)



第2四半期の売上高は大幅伸長
販管費の適切なコントロールにより、営業利益率は大幅改善

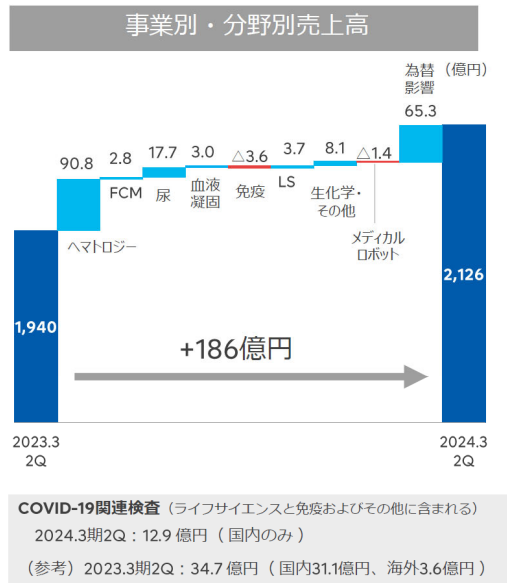
	1Q (4月-6月)		2Q (7月-9月)		(億円) 対 1Q
	2024年3月期	構成比	2024年3月期	構成比	
売上高	953.5	100.0%	1,173.4	100.0%	+23.1% (伸長率)
売上原価	449.4	47.1%	567.4	48.4%	+1.3pt
販売費及び一般管理費	301.4	31.6%	324.4	27.6%	△4.0pt
研究開発費	71.3	7.5%	78.8	6.7%	△0.8pt
その他の営業損益	1.4	0.2%	2.6	0.2%	—
営業利益	132.7	13.9%	205.4	17.5%	+3.6pt
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	86.2	9.0%	135.6	11.6%	+2.6pt

6

スライド 6 をお願いいたします。このスライドは単四半期の推移を示しております。

第 2 四半期は、第 1 四半期に比べ、中国の回復および各地域で高い伸長が見られ、売上は 23.1% 伸長いたしました。販管費、研究開発費の適切なコントロールも実施したため、営業利益が大幅に改善しました。

売上高の増減要因（事業別・分野別）



ヘマトロジー分野は、XRシリーズ効果や機器更新需要および新興国の伸長
尿分野は、米州、中国を中心に伸長
免疫分野は、COVID-19検査需要減の影響により、微減
血液凝固分野は微増も、グローバルOEM供給へ向けた準備は着実に進捗

(億円)	2024年3月期2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	2,126.9	100.0%	109.6%	106.3%
ヘマトロジー	1,281.7	60.3%	112.0%	107.9%
FCM	14.5	0.7%	133.2%	126.1%
尿	180.6	8.5%	115.2%	111.3%
血液凝固	324.0	15.2%	101.8%	101.0%
免疫	104.8	4.9%	96.5%	96.7%
生化学	15.4	0.7%	95.5%	94.2%
ライフサイエンス	102.1	4.8%	110.4%	104.1%
その他	92.2	4.3%	116.6%	111.5%
ダイアグノスティクス事業	2,115.7	99.5%	109.8%	106.4%
メディカルロボット事業	11.2	0.5%	88.8%	88.8%

7

スライド 7 へお進みください。売上高の事業別、分野別増減要因です。

ヘマトロジー分野は、新しいフラグシップモデルである XR シリーズの導入効果や、機器更新需要ならびに新興国での需要増により、大幅に伸長いたしました。尿分野は、米州、中国を中心に高い伸長を達成いたしました。

免疫分野は、COVID-19 検査需要の減少により微減となりました。血液凝固分野は微増にとどまりましたが、次年度からの相互 OEM 供給に向けた準備は着実に進捗いたしました。

売上高の増減要因（地域別・品目別）



米州、中国、APが大幅伸長し、グループの成長をけん引

(億円)	2024年3月期2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	2,126.9	100.0%	109.6%	106.3%※
米州	572.0	26.9%	113.8%	108.2%
EMEA	604.7	28.4%	109.6%	99.1%
中国	475.1	22.4%	110.8%	111.8%
AP	198.3	9.3%	117.2%	114.4%※
日本	276.6	13.0%	96.1%	-
機器	471.5	22.2%	108.4%	104.0%※
試薬	1,286.4	60.5%	109.7%	106.8%※
サービス	292.5	13.8%	113.4%	108.7%※
その他	76.4	3.6%	103.0%	101.9%※

※為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率



地域別の主な増減要因

※以下のコメントは現地通貨ベースで記載

米州	ヘマトロジー分野において、米国、中南米、カナダで伸長した他、尿分野も好調に推移し、2桁に近い増収を達成
EMEA	- 直販化したサウジアラビアやスペインなどが伸長 - 特殊要因（ロシア・COVID-19）により、横ばいに留まる
中国	検査数の回復、現地生産化効果などあり、ヘマトロジー分野の2桁伸長が牽引し、2桁増収を達成
AP	機器設置台数増加などにより、各国が好調に推移し、機器・試薬ともに2桁伸長し、2桁増収を達成
日本	ヘマトロジー、尿、血液凝固分野は伸長するも、COVID-19関連検査需要の減少を受け、減収



8

スライド 8 へお進みください。売上高の地域別・品目別増減要因です。

米州、中国、AP が現地通貨ベースで、それぞれ 108.2%、111.8%、114.4%と大幅伸長し、グループの成長を牽引いたしました。EMEA は特殊要因もあり、現地通貨ベースでは横ばいでしたが、円安の効果もあり、円ベースでは 2 桁成長に近い成長となりました。日本は残念ながら減収となりました。

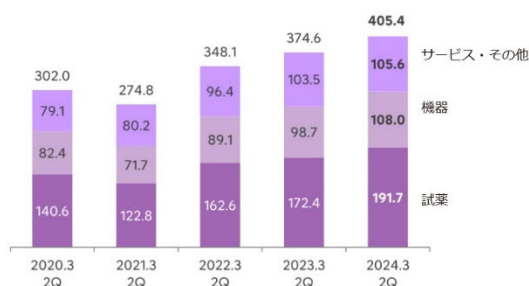
総じて売上は順調に推移しております。各地域の内容については、次のスライド以降でご説明いたします。

米州（地域別）



(Million USD)	2024年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	405.4	374.6	108.2%	113.8%
機器	108.0	98.7	109.5%	115.0%
試薬	191.7	172.4	111.2%	117.1%
サービス・その他	105.6	103.5	102.1%	107.3%

売上高推移 (Million USD)



機器・試薬ともに増収

ブラジルの販売体制強化により、中南米でヘマトロジー・尿分野が伸長

北米においても、機器更新需要の獲得などがあり、ヘマトロジー・尿分野が堅調に伸長

● 機器

✓ヘマトロジー分野において、カナダ・中南米で大幅に伸長したほか、CLIA Waived製品であるXW-100も米国で好調に推移

✓ブラジル・米国において、尿分野が伸長

● 試薬

✓ヘマトロジー・尿分野において、北米、中南米ともに機器設置台数の増加により、伸長

9

スライド 9 にお進みください。

まず、米州でございますが、機器・試薬ともに大幅な増収となりました。ブラジルの販売体制の強化により、中南米でヘマトロジー・尿分野が伸長。また北米においても、機器更新需要の獲得などがあり、ヘマトロジー・尿分野が堅調に伸長いたしました。

EMEA（地域別）



(Million EUR)	2024年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	394.2	397.7	99.1%	109.6%
機器	97.2	100.3	96.9%	107.4%
試薬	234.4	236.3	99.2%	109.6%
サービス・その他	62.6	61.2	102.4%	113.2%

売上高推移 (Million EUR)



サウジアラビアやスペインなど、直販化に移行した国を中心に売上が伸長するも、特殊要因（ロシア・COVID-19）の影響により、横ばい

（特殊要因を除くと現地通貨ベースで+5.9%の伸長）

● 機器

✓直販化したサウジアラビアなどで増収

✓前年イタリアでの大型案件獲得の反動や、ロシアの減収などが響く

● 試薬

✓直販化したサウジアラビアやスペインのほか、機器設置台数が増加したイタリアなどで伸長

10

次、スライド 10 にお進みください。次に EMEA です。

サウジアラビアやスペインなど、直販化に移行した国を中心に売上が伸長するも、ロシア、あるいは COVID-19 関連検査試薬の売上減などの特殊要因により、現地通貨ベースで対前年同等の実績となりました。ちなみに、この特殊要因を除くと、現地通貨ベースでは 5.9%の伸長となり、ビジネスとしては堅調に推移しております。

AP（地域別）



(億円)	2024年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	198.3	169.2	117.2% (114.4%)
機器	44.6	38.3	116.6%
試薬	132.4	116.2	114.0%
サービス・その他	21.1	14.7	144.2%

機器・試薬ともに2桁増収

インド・韓国・オーストラリアで、ヘマトロジー・尿分野が大幅伸長

インドネシアを中心に、免疫分野が好調

● 機器

✓ 各国における販売活動推進により、ヘマトロジー分野を中心に尿・血液凝固・免疫分野が伸長し、2桁増収

● 試薬

✓ 機器設置台数の増加に伴いインド、オーストラリアおよび韓国などでヘマトロジー分野が大幅伸長したほか、インドネシアなど東南アジアを中心に、尿・血液凝固・免疫分野が好調に推移し、2桁増収



11

スライド 11 にお進みください。アジアパシフィックです。

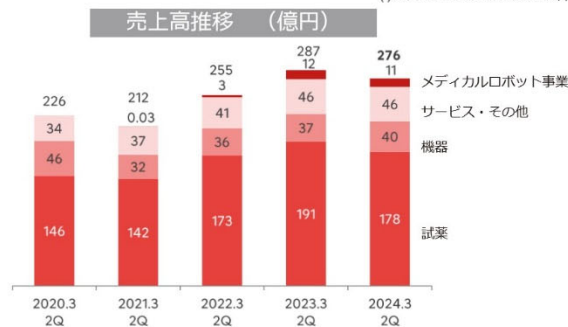
機器・試薬ともに二桁増収でした。インド・韓国・オーストラリアで、ヘマトロジー・尿分野が大幅に伸長し、また、インドネシアを中心に免疫分野が好調でした。

日本（地域別）



(億円)	2024年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	276.6	287.9	96.1% (102.7%)
ダイアグノスティクス事業	265.4	275.2	96.4% (103.4%)
機器	40.6	37.7	107.6%
試薬	178.2	191.3	93.1% (103.2%)
サービス・その他	46.5	46.1	101.0%
メディカルロボット事業	11.2	12.6	88.8%

*()はCOVID-19の影響を除いた場合



機器はXRシリーズやBT-50が好評で、増収
試薬はCOVID-19関連検査需要の減少により、減収

ダイアグノスティクス事業

● 機器

- ✓ XRシリーズによるヘマトロジー分野の伸長や、中小規模施設向け製品導入効果により尿分野が伸長、また血液凝固分野においても、増収

● 試薬

- ✓ 血液凝固分野におけるシェア拡大および血栓項目の採用が進むも、COVID-19関連検査需要の減少（△18.1億円）により、減収

メディカルロボット事業

- ✓ 今期新たに4台導入、販売開始以来の累計導入台数は39台※
- ✓ 累積手術数は2,523症例（2023年9月末時点）

※販売スキームにより、売上計上の額や時期および期間が様々であり、導入台数と売上高は比例いたしません。

12

スライド 12 にお進みください。日本です。

機器は、XR シリーズや BT-50 が好評で、増収を達成いたしました。試薬は、COVID-19 関連検査需要の減少により減収となりました。

メディカルロボット事業、hinotori ですが、7 月 18 日にバージョンアップモデルの販売を開始しました。上期の実績は 4 台で、上期末で累計 39 台ですが、10 月に期ずれしたものがございまして、10 月末時点で累計 41 台の設置となっております。症例数も順調に伸び、9 月末時点、上期末時点で 2,500 症例を突破いたしました。

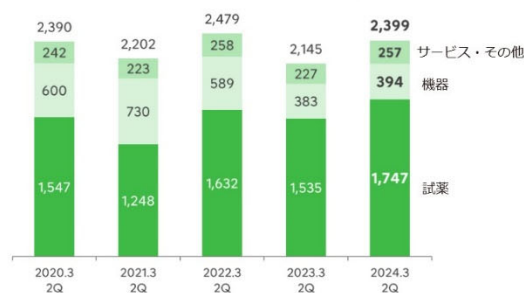
また、シンガポールでも許認可を取得しました。海外展開の第 1 号となります。

中国（地域別）



(Million CNY)	2024年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	2,399.2	2,145.6	111.8%	110.8%
機器	394.4	383.1	103.0%	102.0%
試薬	1,747.1	1,535.4	113.8%	112.8%
サービス・その他	257.7	227.1	113.5%	112.4%

売上高推移 (Million CNY)



第1四半期は代理店需要が低調であったが、第2四半期は回復し、上期累計では2桁増収を達成
腐敗防止運動などの影響は軽微

● 機器

- ✓ 現地生産品の上市により、ヘマトロジーが2桁伸長し、増収

● 試薬

- ✓ 検査需要の回復、機器設置増加により、ヘマトロジー・尿分野は、2桁増収
- ✓ 免疫分野は新規項目などの販促活動により、2桁増収

品目別売上高 四半期推移 (Million CNY)



13

スライド 13 にお進みください。最後に中国です。

第 1 四半期は、代理店需要が低調でありましたが、第 2 四半期は回復し、上期累計では二桁増収を達成いたしました。機器につきましても、現地生産品の上市により、ヘマトロジーで二桁の伸長が見られております。腐敗防止運動などの影響は皆無ではございませんが、現在のところ、軽微な範囲にとどまっております。

中国市場への対応



当面、ヘルスケア市場の需要は大きく成長市場の位置づけに変更なし
様々な環境変化に対し、柔軟かつ迅速に対応していく

- ✓ 機器の現地生産移管推進
(すでに6機種が移管完了、今期は+3機種を上市予定)

政府調達方針

中国市場の動向

- 高齢化によるヘルスケア需要の増大
- 1人当たり国民医療費が先進国水準へ
(現状は、日本の1/7程度)
- 約2,000の2級病院を3級病院へアップグレード
することによる需要増(千県工程)
- 景気減速による経済の停滞
(ヘルスケア市場への影響は軽微)

集中購買

- ✓ 直接販売・サービスへのシフト
- ✓ 試薬の自社化による原価率低減

腐敗防止運動

- ✓ 一部、入札遅延などもあるものの、
当社への影響は軽微、引続き注視
- ✓ 市場環境の健全化は、当社に有利

競合他社の台頭

- ✓ 競争力のあるユニークな製品の開発

14

中国市場の諸課題とその対応策を次のスライドにまとめました。

スライド 14 にお進みください。当社の中国市場への対応について改めてまとめました。

中国市場は、景気減速等の懸念があるものの、高齢化社会の進展、医療レベルの引上げ、そのための千県工程と呼ばれる、2級病院を3級病院へアップグレードする施策の推進など、ヘルスケア事業は引き続き旺盛と考えています。

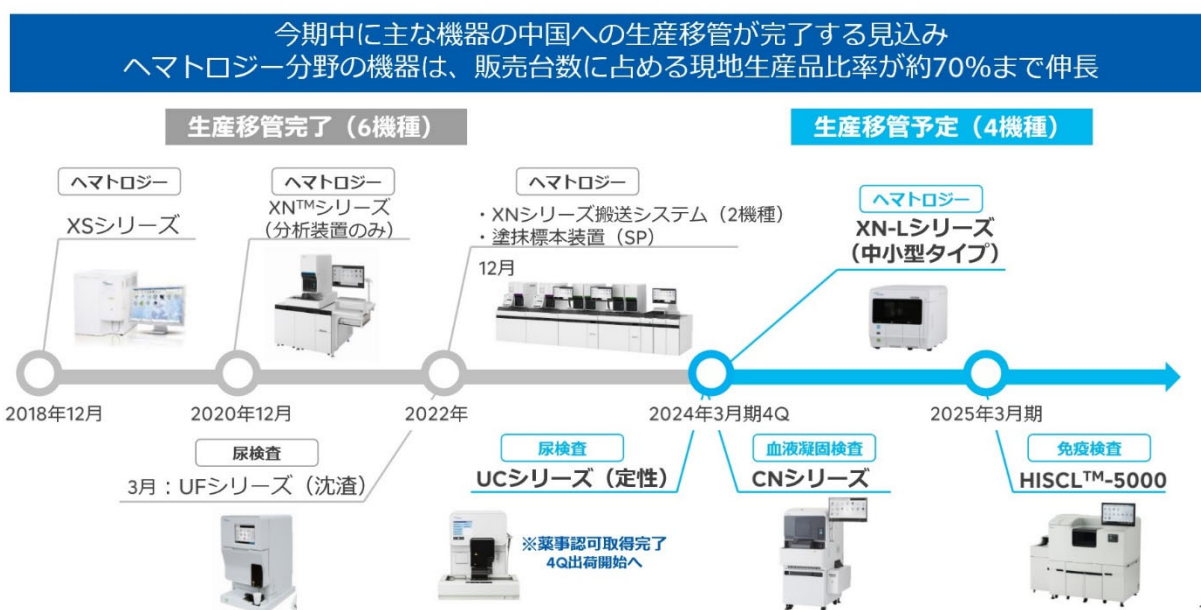
この市場に対し、ここにお示ししているような諸課題がありますが、当社はこれらについて対応してまいりました。まず、政府調達方針、国産優遇政策ですが、機器の生産移管を進めており、既に6機種が移管済み。今期中には新たに3機種が移管完了予定で、ヘマトロジー分野の機器は上期で既に販売台数に占める現地生産品比率が70%まで伸長いたしました。

次に、集中購買への対応ですが、一部直接販売・サービスへシフトいたします。また、試薬の自社化を推進し、価格競争力も向上させます。

腐敗防止運動ですが、入札案件の遅れが一部に見られたようですが、当社への売上影響は軽微でした。また、長期的には市場での公正な競争が促進されて、当社にはメリットがあると考えています。

最後に競合の台頭でございますが、現在競合優位性を持つ商品の開発を進めております。今後も様々な環境変化があるかもしれませんが、それらに対して柔軟かつ迅速に対応してまいりたいと思います。

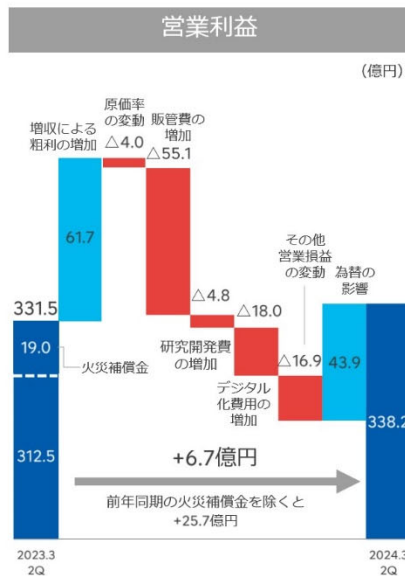
参考：中国への生産移管スケジュール



15

次のスライド 15 に、参考情報として、中国におけるノックダウン生産の移管状況を示しております。またご参照ください。

営業利益の増減要因



※下記数値・コメントは為替の影響を除く

- 原価率変動による影響：4億円（0.2pt 悪化）
 - ✓ 改善要因：輸送費高騰の緩和 0.4pt、プロダクトミックスの影響 0.3pt
 - ✓ 悪化要因：サービスコスト 0.6pt、製品等の原価悪化 0.1pt
- 販売管理費の増加：55億円
 - ✓ 労務費：直販化に伴う人員強化や人件費増：約40億円
 - ✓ 経費：インフレや販売促進活動の強化：約15億円
- 研究開発費の増加：4.8億円
 - ✓ 製品開発への継続投資および薬事関連費用
- デジタル化関連費用の増加：18億円
 - ✓ グループの生産性向上に向けたデジタル化投資

16

では続きまして、スライド 16 にお進みください。営業利益の増減要因でございます。

対前年実績に対し、増収による粗利の増加があったものの、原価率変動による影響が 4 億円ありました。輸送費高騰の緩和や、プロダクトミックスによる改善がありましたが、インフレによるサービスコストの増加や、製品等の原価の悪化などマイナス要因もありました。

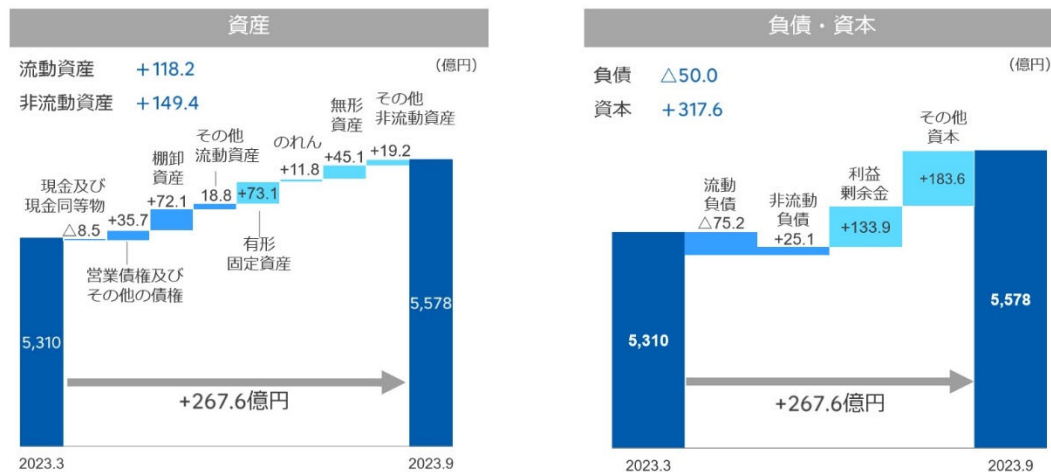
販管費については、直販化に伴う人員強化、人員増に加え、インフレや販売促進活動による経費の増加もあり、55.1 億円のマイナス影響でした。

研究開発費の増加はコントロールしたものの、デジタル化関係費用の増加などがあり、為替影響を加味しても微増にとどまりました。ただし、先ほども申し上げましたように、前年同期の火災補償金を除くと 25.7 億円の増加となっております。

連結財政状態計算書の増減要因



棚卸資産は、下期の機器販売に向けた準備と為替影響により、増加
有形固定資産は、ブラジルのトレーニングセンター開設などにより、増加



17

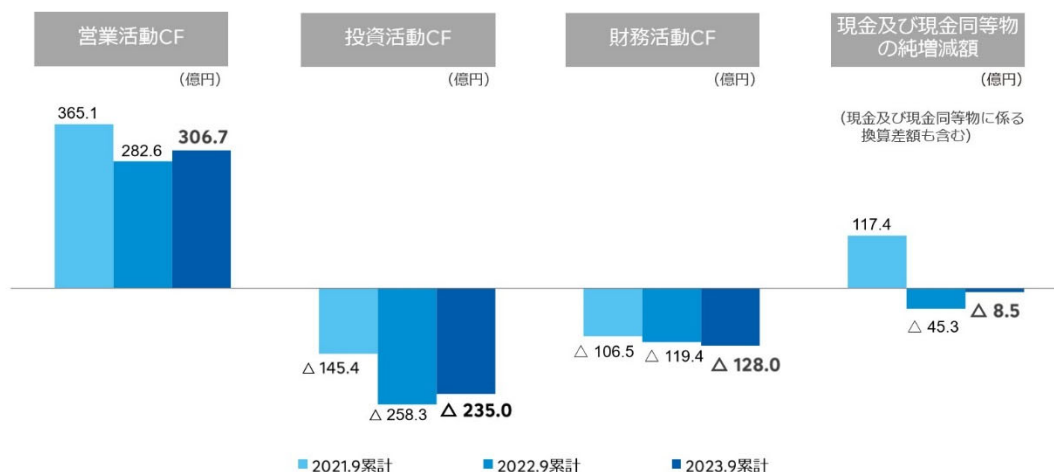
次のスライド 17 にお進みください。連結財政状態計算書の増減要因でございます。

棚卸資産や有形固定資産の増加はありますが、健全な状態と考えております。

キャッシュフローの推移



営業活動CFは増加するも積極的な投資および配当の増額により、現金が減少



18

次のスライド 18 にお進みください。キャッシュフローの推移です。

営業キャッシュフローは増加するも、積極的な社内デジタル化への投資および配当の増額により、現金が若干減少いたしました。

シスメックスの成長戦略



新興国戦略 (ハマトロジー中心)

- **インド**
 - ✓ 生産工場の着工
 - * 2025年3月期 新生産拠点稼働
 - ✓ 州政府と連携した活動を開始
 - ✓ インド市場向け製品の開発推進
- **中南米**
 - ✓ 中下位市場への販売体制強化
 - * 当社がプロモーション実施
 - ✓ ブラジルにトレーニングセンターを開設 (Center for learning)
- **中東**
 - ✓ サウジアラビアの直販化

既存事業の強化 (免疫・血液凝固・ライフサイエンス)

- **免疫分野**
 - ✓ 富士レビオHD株式会社との協業による検査項目拡充
 - ✓ 中国での検査項目の拡充
(2024年3月期2Q時点：58品目)
 - ✓ アルツハイマー病検査*試薬については、日本で販売開始、米国ではLDT向けに大手検査センターへ供給開始
* 髄液の血漿からアルツハイマー病の原因となる脳内アミロイドβの濃縮状態を調べる検査
- **血液凝固分野**
 - ✓ シーメンス社とのグローバルOEM契約に基づく欧米市場自社販売準備は順調に進捗 (2025年3月期より開始)
 - ✓ 原材料の自社化推進

新規事業の拡大

- **手術支援ロボットシステム**
 - ✓ バージョンアップモデルの発売
 - ✓ シンガポールでの販売承認取得
 - ✓ 症例数は2,500件超
- **再生細胞医療 (AlliedCell株式会社*)**
 - ✓ 株式会社JUNTEN BIOとのライセンス契約
 - ✓ 2026年3月期薬事申請予定
* JCRファーマ株式会社とシスメックスとの合弁会社

20

次に当社成長戦略と上期の主なトピックスについてご説明申し上げます。スライド 20、お願いいたします。

5月に発表いたしました、新経営戦略において、本中計における重点的な取り組みは次の三つ。新興国戦略、既存事業の強化、新規事業の拡大であります。

新興国戦略では、まずインドでの生産工場の建設に着手いたしました。工事は順調に進んでおりまして、2024年度に稼働予定です。中南米市場では、ブラジルを中心に、Rocheとともに販売活動を強化しており、このたびカスタマートレーニングセンターをブラジルに開設いたしました。

中東では昨年度、直販化を開始したサウジアラビアの体制が整い、本格的な販売を開始いたしました。

以上のように、インドをはじめとするグローバルサウスの成長に取り組む活動を加速しております。新興国市場が成長すれば、当社の地域バランスはより多様性を増すことになります。

二つ目は、既存事業の強化です。免疫分野ですが、富士レビオ様との協業に合意いたしました。今年度中に具体的な活動に進む予定です。また、アルツハイマー病検査は日本で発売を開始し、米国の大手検査センター、Labcorp にも LDT 用として供給を開始いたしました。

血液凝固分野ですが、次年度からの欧米での発売に向けて順調に準備を進めており、非常に期待が持てます。

三つ目の新規事業については、一昨日発表させていただきましたが、J C R ファーマ様との合併会社である、AlliedCel 社が JUNTEN BIO 様から、再生医療製品に関する製造および販売のライセンスを取得しました。本製品は、移植時に免疫抑制剤からの離脱や低減を目指すもので、画期的な薬剤です。治験も順調に進んでいるとお聞きしており、2026 年 3 月期には薬事申請を行う予定です。再生細胞医療の事業も予定より、想定よりも早く進む可能性があります。

以上のような形で、成長戦略に対する布石は着実に打っております。

サステナビリティ経営の推進



人的資本強化に向けた投資、人的資本に関わる情報開示の充実

信託型株式報酬制度（ESOP）の導入

- ✓ 従業員のエンゲージメント向上や競争力ある報酬実現に向け、新たな仕組みを導入
- ✓ 2025年3月期より、海外子会社の特定キーポジションを対象に先行導入
- ✓ 2026年3月期以降、国内外のグループキーポジションへ展開予定

本信託による当社株式の取得内容

- | | |
|----------|--------------------------------|
| ①取得する株式 | 当社の普通株式 |
| ②取得価格の総額 | 120億円（予定） |
| ③株式取得期間 | 2023年11月13日～
2024年1月31日（予定） |
| ④株式取得方法 | 株式市場から取得 |

ISO30414認証取得

- ✓ 透明性ある情報開示を通じたステークホルダーとの対話実現に向け、ISOの認証取得
- ✓ 11項目58指標について経営戦略に沿った定義づけを行い開示
- ✓ 日本を含めたアジアの製造業では初の取得



詳細情報は、サステナビリティデータブックにて開示

次のスライド 24 にお進みください。サステナビリティ経営の推進、人的資本への投資強化への取り組みについてご説明します。

まず、昨日発表いたしました、従業員向け信託型株式報酬制度（ESOP）を導入いたします。これは、報酬の一部を株式で支払うもので、従業員の企業価値向上へのモチベーションとなります。

2024 年からは、海外子会社の特定キーポジションを対象として、2025 年からは国内外のグループキーポジションに展開する予定です。そのために、市場より、ここにお示ししている内容で、当社株式を調達いたします。

二つ目は、人的資本情報開示ガイドライン、ISO30414 の認証取得です。これは日本をはじめ、アジアの製造業では初めての認証取得となります。人的資本に関する透明性のある情報開示を通じて、ステークホルダーの皆様との対話を充実させてまいります。

通期目標達成にむけた下期の取り組み



- 新製品による効果
 - ✓ EMEA・AP・中国におけるXRシリーズおよびBT-50上市
 - ✓ 中国の免疫試薬項目の販売促進
 - ✓ 尿分野において、中規模施設を対象としたUF-1500の販促
- 原価率低減
 - ✓ 輸送費高騰の緩和
 - ✓ 血液凝固試薬における原材料の自社化などによる原価低減
 - ✓ 増産効果による原価低減
 - ✓ 一部地域、品目における価格転嫁
- 事業・研究開発の再整理
 - ✓ 不採算事業の見直しにより、資源配分の優先順位付けを行い、生産性と効率性を向上
- 為替レートの見直し

26

次に、2023 年度の通期見通しについてご説明いたします。スライド 26 にお進みください。

まず下期の取り組みです。

新製品は、ヘマトロジーの XR シリーズならびに精度管理などの自動化が可能な周辺モジュールであります BT-50 が、EMEA、AP、中国市場に導入されます。また、中国市場においては、免疫試薬 58 項目が本格的に導入されます。

次に原価ですが、輸送費高騰の改善や試薬原材料の自社化、機器・試薬の売上伸長に伴う増産効果などが期待できます。また、これだけのインフレですので、価格転嫁についても促進していきたいというふうに思っております。

さらに、事業・研究開発の再整理ということで、不採算事業につきましては、上期から改善の検討を進めており、優先順位付けを明確化して、全体として効率化を図りたいと思います。

そして為替ですが、円安によるフォローウインドも期待できます。

2024年3月期 通期業績予想修正



緑字：期初公表からの変更箇所

通期の売上高と営業利益は期初公表（5月）から変更なし 想定為替レートおよび販管費等は、上期実績に基づき修正										
(億円)	2024年3月期 上期 (4月-9月)			2024年3月期 下期 (10月-3月)				2024年3月期 通期 (4月-3月)		
	実績	構成比	対計画 進捗率	期初公表	修正公表	構成比	増減額	修正公表	構成比	対前年
売上高	2,126	100.0%	96.7%	2,400	2,473	100.0%	+73	4,600	100.0%	112.1%
売上原価	1,016	47.8%	-	-	1,158	46.8%	-	2,175 (+20)	47.3%	111.9%
販売費及び 一般管理費	625	29.4%	-	-	629	25.4%	-	1,255 (+10)	27.3%	111.7%
研究開発費	150	7.1%	-	-	194	7.9%	-	345 (△30)	7.5%	111.1%
その他営業損益	4	0.2%	-	-	1	-	-	5	0.1%	48.6%
営業利益	338	15.9%	84.6%	430	491	19.9%	+61	830	18.0%	112.7%
投資計画			設備投資 478億円				減価償却費 350 億円			
● 想定為替レート										
	通期 (2023年5月公表)	通期 (2023年11月修正)	下期 (2023年11月修正)	前期実績 (23年3月期)			● 為替感応度の概算値（年間）			
1 USD	133.0円	143.0円	145.0円	135.5円			USD	売上 7.9億円	営業利益 1.8億円	
1 EUR	143.0円	154.2円	155.0円	141.0円			EUR	5.8億円	1.4億円	
1 CNY	19.2円	19.9円	20.0円	19.8円			CNY	54.6億円	41.8億円	

27

スライド 27 にお進みください。

以上の取り組みにより、上期のビハインドはリカバーしたいというふうに考えております。通期の業績見通しは、期初公開のままに据え置きます。なお、2023 年度下期における想定為替レートは、円安方向に修正し、ドルは 133 円から 145 円に、ユーロは 143 円から 155 円に、人民元は 19.2 円から 20 円に見直しました。通期ではそれぞれ 143 円、154.2 円、19.9 円となります。

また、上期の実績に基づいて、原価、販管費、研究開発費のバランスも見直しております。

予想配当額



● 期初予想から配当額は変更なし

	中間	期末	年間	配当性向
2023年3月期	40円	42円	82円	37.5%
2024年3月期 (案)	42円	42円	84円	33.8%

当社は、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

28

スライド 28 にお進みください。

配当につきまして、期初より変更がありません。

以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

以上